

2017年度 久留米信愛女学院中学校・高等学校 学校自己評価表

2017年度、本校は以下のような目標・方針・計画をもとに、教育活動をおこないます。

※評価はA・B・C・Dの4段階で行います。

A：達成できた B：ほぼ達成できた C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

教育目標	カトリック精神を基盤とする教育理念の上に立ち、生徒の全人格的陶冶を目指す。生徒一人ひとりが主体性を確立し、おのおのの可能性を最大限に開発して、絶えず自分を越えて学ぶ姿勢を生涯持ち続けることのできる自己形成力を養う。人間社会の多様性を理解し、とりわけ弱い立場に置かれた人を大切にす豊かな心を持ち、社会に秩序と平和をもたらす慈愛、信頼、寛容、感謝、協力の精神を育む。	総合評価
年度目標	「学びの習慣化」の徹底からはじめ、グローバル教育、ICT教育の充実と、対話的授業と課題解決型学習の促進により、生徒の「主体的に学ぶ姿勢」を育成する。	B

No. 1

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		
			中間	年度末	年間
宗教教育	○カトリック精神に基づく「信愛教育」の推進 ○校内の宗教的雰囲気の醸成	「祈り」の心を育てるため、美しい姿勢と沈黙を保持させるなど、朝終礼時の雰囲気づくりの徹底。	A	A	A
		他者のために自分を与える精神を育てるための機会として、学内外での奉仕活動への積極的な参加の呼びかけ。	B	B	
		校内要所に聖像や聖画を置くなど、ふさわしい空間づくりの推進。	A	A	
生徒指導	○基本的生活習慣と規範意識の確立 ○主体性と協働性の伸長 ○校内美化の推進	「校訓」「信愛しぐさ」を意識し、美しい言葉遣い・立ち振る舞いを行うよう呼びかけ指導の実行。	B	B	B
		生徒会活動をはじめ、生徒が企画運営する教育活動が、生徒の主体性や統率力、協働性を育む場になるよう、支援的な指導の実行。	B	B	
		学年と連携して行う、掲示物、ロッカー、教室全体の整理整頓の呼びかけ、落ち着いてHR活動ができる環境の整備。	B	B	
教科指導	○生徒の主体的に学ぶ姿勢形成のための取り組み ○教育効果を高めるための指導計画の確認・運営 ○授業の満足度の向上のための取り組み ○ICTを活用した教育のための準備・企画・運営・推進	学びの習慣化のための「ステラ手帳」の活用指導の徹底。	A	A	B
		次期学習指導要領・新テスト制度の情報の共有と、本校における指導の確認。	B	B	
		主体的、対話的に学びを深めさせ、課題解決型学習促進に向けた授業づくりのための助言と運営。	B	B	
		ICTを活用した授業支援および校務支援のための環境整備。	B	B	
進路指導	○受験指導の徹底 ○教職員の指導力の向上 ○進路実現に向けての学習指導の徹底 ○キャリア教育の徹底 ○生徒・保護者に対する進路情報の積極的な提供	2018年度大学入試と2020年度からの新テスト導入に向けて、情報収集と分析を行い、先手を打つ受験指導と6カ年または3カ年の学びを進路実現に繋げる取り組み。	B	B	B
		受験校決定や教職員間の目線合わせのための「進路指導検討会議の開催」、実力テストの問題・結果分析と学習指導の徹底。	B	B	
		実力養成につながるICT教育の促進と、コンテンツ（高2スタディサプリなど）の効果的活用による家庭学習の習慣化。	B	A	
		リリウムプランなどを活用した自己表現力の育成、国公立大学や難関大学の推薦・AO入試に対応する小論文指導や面接指導の促進。	B	A	
		大学説明会・入試動向・マネープランに関する講演会の開催と奨学金関係業務の遂行。	A	B	
健康安全管理	○確実な申し送りと教育支援活動の実施 ○相談活動の充実	職員研修会の企画・実施。	A	A	A
		学校医及びスクールカウンセラーによる相談活動の実施。	A	A	
		学院および中高の防災訓練等の実施。	A	A	
人権・同和教育	○他者と「共に生きる」心と姿勢の育成 ○「自己を他者に活かす」精神・姿勢の育成	人権学習やHR活動を通して、自己の思いを正しく理解するとともに、他者の立場や思いを理解し、さらに、そこから他者を受け入れ、互いに大切な存在として人間関係を育む姿勢の育成。	B	B	B
		現代社会に存在する差別や偏見について知り、今ある人権問題について考えさせるとともに、差別や偏見をなくすために何ができるか主体的に考えられるような指導の実践。	B	B	
国際教育の推進	○グローバル人材育成のための教科横断型カリキュラムの開発 ○海外難関大学進学を視野に入れた一貫教育の推進 ○国際交流プログラムの企画運営とその関連活動の支援	姉妹校を含む各種海外研修時に行う、各国の事情を踏まえた課題研究指導計画の検討。	A	A	B
		英語科と連携し、6ヶ年を通じて実践的英語学習の動機づけと練成のための研修企画。	B	B	
		年間を通じ海外姉妹校生徒とネット等を活用した交流機会の創設・実施、および交流の深化。	C	C	
		「英語圏への早期海外留学プログラム」の推進と、効果の検証。	A	A	

研究・研修	○教員の授業力向上のための生徒・保護者からの授業評価の企画と運営	問題点を速やかに教科・学年に還元し、組織的な教科指導力の向上につなげるための、「学習方法講座」の実施。	A	A	A
	○教員の質の向上のための各種研修会の企画と運営	「教師力向上のための職員研修」の一環としての授業参観の活発化。	B	A	
家庭との連携	○後援会役員・評議員との事務連絡・調整	後援会役員・評議員との意見交換結果の、信頼される学校づくりへの反映。特に「信愛ひらくプロジェクト」の趣旨周知徹底。	C	B	B
	○保護者との連携強化	父親の集まり「信愛父親の会 Shin-ai Dads' Club」の企画・運営。父親と学校のつながりや父親同士のネットワークの構築。	B	B	
	○卒業生の保護者との支援体制を構築	歴代後援会役員交流会「百合の会」、卒業生やその保護者の支援を得て、学校の活性化の一層促進。		B	
同窓会との連携	○卒業生情報の有効な活用	卒業生による講話などを通して、身近な先輩の活躍を知ることによる、生徒の進路意識の啓発。	C	C	B
	○同窓会と連携したロザリオの集い等のイベントの実施	各イベントが、学校からの情報発信だけでなく、卒業生同士のネットワークづくりにつながるような工夫の実践。	B	B	

No. 2

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		
			中間	年度末	年間
中学1年	○基礎基本の徹底と生活習慣の確立 ○自己表現力とコミュニケーション能力の育成 ○信愛生としての自覚と誇りの養成 ○保護者との連携	ステラ手帳を活用し、起床・就寝・学習開始時間の3点固定の意識化。	B	B	B
		朝読書を通じて、語彙を豊かにし、自己の考えを的確に表現できるようにする指導。	B	B	
		黙想や祈りを通じて、カトリック校としての心の教育の実践。	B	B	
		学年便りを毎月発行し、学校の取り組みや生徒の活動の様子を保護者に伝えていく。	A	A	
中学2年	○学習サイクルの確立 ○「他とつながり合い、共に深め伸びる」姿勢の育成 ○良好な人間関係の構築	予習・復習を習慣化させるための、自学ノートや課題の提出の指導。	A	B	B
		クラス活動や学校行事を通して、集団の中での自身の役割を見つけ、それを全うできるような助言・指導。	A	A	
		気持ちの良い挨拶を習慣化させ、その場に応じた適切な言動ができるような、助言・指導。	B	B	
中学3年	○主体的に学び、考え、探究する力の育成 ○自己表現能力とコミュニケーション能力の育成 ○豊かな心の育成 ○保護者との連携	「ステラ手帳」を活用した自らの時間の使い方の改善と、第Ⅱ期の授業・家庭学習の充実。	B	B	B
		「修了論文・制作」「校外研修」を通じた、グローバルな視野・社会貢献の姿勢・言語表現力の獲得。	B	A	
		「自己を他者に活かす心をもった生徒」の育成とボランティア活動への参加の推奨。	B	A	
		信愛教育・一貫教育への理解を促す機会としての保護者面談・学級懇談会等の実施。	A		
高校1年	○高校生活の基盤固め（中学からの脱却） ○学習に対する意識の向上 ○自己再発見	生活習慣を確立させるための指導。ステラ手帳などを活用し、学習時間を中心とした3点固定の確立の指導。	B	B	B
		ステラ手帳を活用した家庭学習の充実、自学自習の習慣づけとともに、自らの学習スタイルを見つけさせるための指導。	B	B	
		個人面談を通じ、自分の適性について考えさせ、しっかりとした文理選択を行わせるための指導。	A	A	
高校2年	○基本的学習習慣の確立 ○基本的生活習慣の確立 ○進路意識の高揚 ○グローバルな視野を持ち、様々な立場での役割を果たすことができる力の育成 ○保護者との連携	スタディサプリを全員受講することで、基礎から応用まで自ら学ぶよう教科担当者と連携しながらの運用。	B	B	A
		朝礼・終礼の挨拶の徹底。「信愛 No. 1」の挨拶を目指す。	B	B	
		ものの見方や考え方、将来の可能性が広がるような大学模擬講義などの機会の提供、校外活動への積極的参加の促進。	A	A	
		韓国やカナダの高校生との交流会を通して、それぞれが成長できるような指導の実践。	A		
高校3年	○受験生としての生活習慣と社会性の涵養（時間管理能力・環境管理能力・関係構築力の確立） ○受験生としての自律学習態勢の確立 ○社会貢献意識に基づく進路実現 ○隣人愛の理解と実践・「人間力」育成	聴く力・読む力・「発信する力」（＝発展的コミュニケーション力）の育成	A	A	A
		進路意識に根差した自律学習支援	B	B	
		主体的・長期的学習姿勢（＝持続可能社会への貢献意識）の涵養	B	A	
		カトリック精神の実現（他者に奉仕する生徒、タレントを十分に発揮する生徒の育成）	B	A	